

あまみ  
**奄美のケンムンについて知ろう！**



奄美群島には、ケンムンと呼ばれる妖怪がいます。ガジュマルの樹に棲み、その樹を切り倒すとケンムンのたたりにあうと恐れられています。

「ケンムンを見た」という人の話によれば、子供ほどの身長で、座るとひざが頭を越すほど足が長い。赤ら顔で、顔は猫にも犬にも猿にもカッパにも似ている。頭の上に皿があるともいいます。全身が赤い毛が生えていて、ヤギのような臭いにおいがする。イタズラと相撲が好きで、好物は魚の目玉。タコと屁が苦手だとか…。

ほかにも木を切ったら股間が腫れたとか、目を突かれた、黒砂糖をダメにされたなど、ケンムンにまつわる話はたくさんあります。

『ケンムン遊び』

ケンムン役の子供が、木の切り株の陰に、赤い帽子、赤い服を着て隠れます。そこに杖をつく格好をしながら、子供たちが一列になって、次の歌を歌いながら通ります。

♪カンカンミチグワヌ アリヨタットウ♪(ここに小道がありましたよ)

♪ニガニガ キョータキョータ♪(見に見に来ました、来ました)

♪アン マツギヌ シャーナンティ♪(あの松の木の下に)

♪アーボシクワ パフティ♪(赤い帽子をかぶって)

♪アーギン キチュンミヤ♪(赤い着物を着ているのは)

♪ヌーダリヨケー♪(なんでしょね)

最後の「ヌーダリヨケー(なんでしょね)」を2度唱えると、ケンムン役の子供が、

ワンヤ ケンムンドー！(俺はケンムンだぞー！)

と大声で言いながら、木陰から飛び出して誰かを捕まえます。捕まえられた子どもは、ケンムン役を交代して、また同じ事を繰り返します。